

# トウス

～カーテンコール 冬の熱い日～

トウス・カーテンコール

冬の熱い日

「……なんてゆーか、こつ、家に着く前に遭難し  
そうなんだけどっ!？」

耳元で轟々と鳴る暴風にかき消されないように、  
大声で叫ぶ。

「まあ、北海道だもの。たまにはこんな日もある  
わよ」

状況にそぐわないおつとりとした声で美杜さん  
が応える。

一月下旬のある日の学校帰り。

今日は朝から激しい雪が降っていたのだけれど、  
放課後にはそこに暴風が加わって、外は十メートル  
先も見えないような猛吹雪となっていた。

北海道ではよくあることなのだろうか。隣を歩  
く美杜さんは平然としている。もつとも、なにが  
あっても取り乱すことなんてない人だから、彼女  
の反応はあまり参考にならない。

少なくとも、仙台育ちで初めて北海道の冬を迎  
える私にとっては、学校から家までのほんの数キ  
ロの道程で、命の心配をしたくなるような吹雪  
だった。

前は見えないし。

脚はふくらはぎまで雪に埋まっているし。

強風と雪のせいで顔が痛いし。

なんといつても、凍えそうなほどに寒い。

「ねえ、美杜さん。この吹雪、止ませられな  
い?」

美杜さんの『力』をもつてすれば、天候を操る  
ことなど朝飯前のはず。せめて、家に着くまでの  
間くらいは吹雪を鎮めておいてほしい。

なのに美杜さんってば。

「時には、自然をありのまま受け入れるのもいい  
ことよ?」

なんて言って、平然と微笑んでいる。

「……いや、マジで遭難しそうなんだけど? 私  
は断言する! あと百メートルと歩かないうちに  
凍りついて、身長一五五センチの雪だるまになっ

てるに違いない！」

「それは困るわね。……じゃあ、こっしたら少しは暖かくならない？」

美杜さんが腕を組んでくる。

いや、組むというよりも、腕にしがみついているという方が適切なくらいに密着してくる。

顔も近づいてくる。頬がすり寄せられる。

「……」

思わず赤面してしまう。

全体としてはかなり痩せているくせに、出るべきところは充分すぎるほどに出ている美杜さん。

胸の大きなふくらみの存在が、厚いコートの上からでもはつきりとわかってしまう。ちょうど腕に押しつけられているような状態なのだ。

どうしても意識してしまう。

意識せずにはいられない。

その白く柔らかく滑らかなふくらみを、直に見、そして触れたことのある者としては。

思い出してしまうと、指先に、唇に、その感触が甦ってくる。

私たちは一応、そういう関係だった。

単なる友達とか、学校の先輩後輩というだけじゃなくて。

女の子同士ではあるけれど、『恋人』というのがいちばん近い関係。

昨年の秋に二人で旅行して以来、キスとか、あるいはもつとエッチなこととか、何度も経験している。

だから。

腕に当たる胸の柔らかさを意識してしまうと、どうしても思い出してしまう。

まるで美の女神による造形のような、白く美しい美杜さんの身体。

滑らかな肌触り。

そして、その美しく大人っぽい顔からは想像できないくらいに可愛らしい声。清楚な外見からは想像できないくらいに激しい反応。

思い出して、赤面してしまう。

凍てつくような吹雪の中なのに、顔が火照ってしまふ。

「……そ、そんなにくつつかないですよ。歩みにくいじゃない」

わざと素っ気なく言う。

そうしないと、学校の帰り道だというのに、ヘンな気分になってしまいそうだった。

「えー、だって」

なのに美杜さんってば可愛らしく唇をとがらせて、かえって密着してくる。その身体の暖かさが心地よくて、照れくさくても離れることができない。

「ね、幸恵」

耳元でささやかれ、熱い息がかかる。くすぐったくて首をすくめる。

「帰りに、幸恵の家に寄っていい？」

「え？」

別に、初めてというわけではない。

私の家の方が少し学校に近いから、時々、家に寄っていくこともある。私たちは外で過ごすことが多かったけれど、北海道の冬は長時間屋外にいるのに適した気温ではないし、屋内で二人きりで

なければできないこともある。

そう、たとえば。

甘えるような美杜さんの声。潤んだ瞳。

それが意味するところはひとつ。

「……寒いなら、二人で暖かくなれること、しない？」

ほら、やっぱり。

暖かく……というか、「熱く」の間違いではないだろうか。

「いや？」

いやじゃ、ない。もちろん。

むしろ、それを望んでいると言ってもいい。こんな風に密着されて誘われたら、すっかりその気になってしまう。

「……今日の美杜さん、妙に積極的だね？」

「だって今、発情期なんだもの」

美杜さんがくつついて支えていてくれないければ、コケた私は深い雪の中に顔から突っ込んでいたかもしれない。

この美しい、おしとやかな雰囲気的美杜さんの

口から、よりもよって「発情期」なんて単語が発せられるとは。

「……………せめて、『排卵期』とか」

あまり変わらないかもしれないけれど。

「意味は一緒でしょ？」

「年頃の女の子としては、もっとこう、慎重というかなんというか……………」

「いいじゃないの、そんなことどうだって。そんなことより早く行きましょ」

深い雪に足を取られて難儀している私を引張って、ぐいぐいと進んでいく。

「もう、今朝からすっかりその気なんだから」

「……………美杜さんって」

吹雪なんかまるで意に介さず、まるで春の野原でスキップしているような足取りで私を引張っていく。

こうした関係になるまで、美杜さんがこんなに積極的な人だなんて知らなかったけれど。

……………そう。

考えてみれば、当然のことなのかもしれない。

そういえば、前回こんな風に誘われたのって、ちょうど二八日前だったなあ……………なんてことを思い出しながら、美杜さんに引きずられていく。

「自然をありのままに受け入れる」美杜さんは、自分の、動物としての本能にも素直に従う人なのだった。

あとがき

えーと。

なんと言いますか……

私の中では、美杜さんは『誘い受』です。

実はかなり積極的な人です 発情期限定で

(笑)。

イメージぶち壊れた人はごめんなさい。

……ということ。

うずらさんに頼んで『トウス』のバナーを作っ

てもらったついでに、お遊びで二人の後日談など

描いてみました。

ところで。

発情期云々はともかくとして、女性から「生理前はしたくなる」という話はよく聞きます。

これってどうしてなんでしようね？

動物の本能として考えれば、妊娠の可能性が低い生理直前にしたくなるのって不自然な気がしま

す。

まあ、人間は繁殖のためばかりではなく、楽しみとしてもそ〜ゆ〜ことをするので、ありがたいことなんです(笑)。

さて、それでは次回予告。

あまり間を空けずに、久々の長編『竜姫の翼

北極航路邀撃戦隊』を公開したいところです。

もう作品は書き上がって、公開用ページを作る

だけなんです(笑)……さて、いつ頃公開できるでしょうか。

ま、のんびりとお待ちください。

二 四年八月 北原樹恒

[kisune@nifty.com](mailto:kisune@nifty.com)

創作館ふれ・ちせ

<http://nure-chise.atnifty.com/>

## 閲覧に関する注意事項

このPDFファイルは、画面での閲覧、紙への印刷の両方に適合するようにレイアウトされているため、閲覧時にはちょっとした工夫が必要です。

### モニタ上での閲覧

モニタ上で読む場合、ブラウザやアクロバットリーダーのサイズを横長にして、ちょうど半ページが画面に収まるようにしてください。すると、Enterキー(Returnキー)で半ページずつ読み進めていくことができます。

画面解像度が高い場合(1280×1024以上)、ウィンドウサイズをできるだけ大きくして、1ページ単位で表示することもできます。その場合は、表示モードをデフォルトの「幅に合わせる」から「全体表示」に変更します。

なお、モニタ閲覧には旧タイプのレイアウトの

方が適しているかもしれません。(その代わり、旧レイアウトは印刷向きではないのです)

どうしても旧レイアウトで読みたいという方は、北原宛にその旨メールでお知らせください。個別に対応いたします。

### 印刷しての閲覧

印刷して読む場合、用紙サイズはB5を使用します。

印刷実行前に、アクロバットリーダーのプリンタ設定を確認してください。

高性能のレーザープリンタを使用する場合、プリンタの「2ページ印刷」の機能を用いた方が、実際の本に近い文字サイズで読みやすいかもしれませんが、(縮小してB6用紙に印刷するのでも可)

アクロバットのバージョンが4の場合、印刷が極端に遅くなる場合がありますが、これはソフトの仕様によるものと思われるのでご了承ください。